

男女共同参画に関する意識調査 (ダイジェスト版)

千葉市男女共同参画センターでは、平成25年度事業として「男女共同参画に関する意識調査」を実施しました。この調査は、男女共同参画に関する意識や実態を明らかにし、男女共同参画社会の形成を推進していくための具体的な施策に活かすことを目的としています。

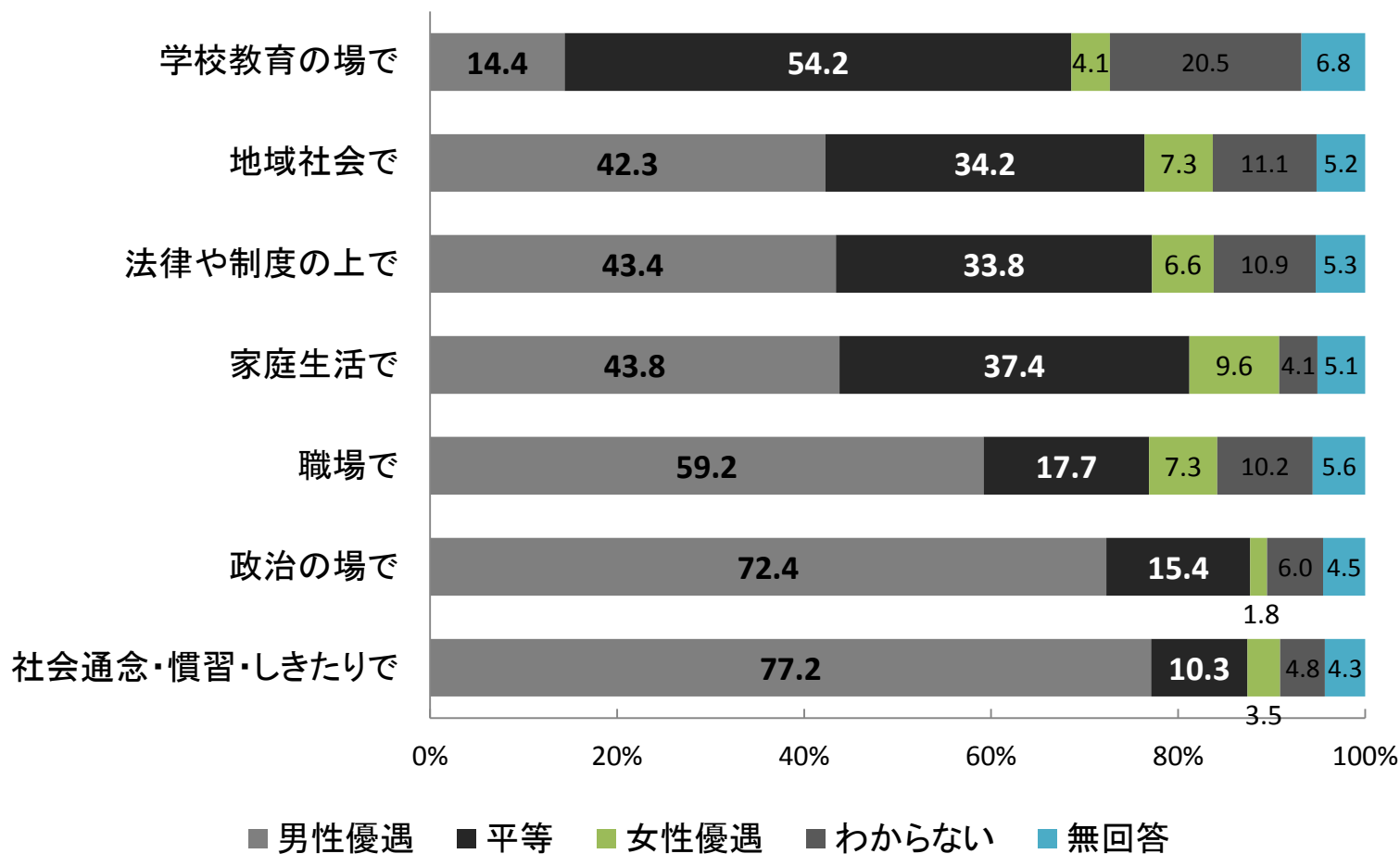
* 調査の対象	千葉市内にお住まいの満20歳以上の男女各1,500人 (無作為抽出)
* 調査の方法	郵送配布－郵送回収法
* 調査の期間	平成25年9月3日～9月18日
* 回収の状況	有効回答数:941件(有効回答率:31.4%)

注1) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

注2) グラフは、内容に応じて、抜粋したものを掲載しています。

男女の地位の平等感について

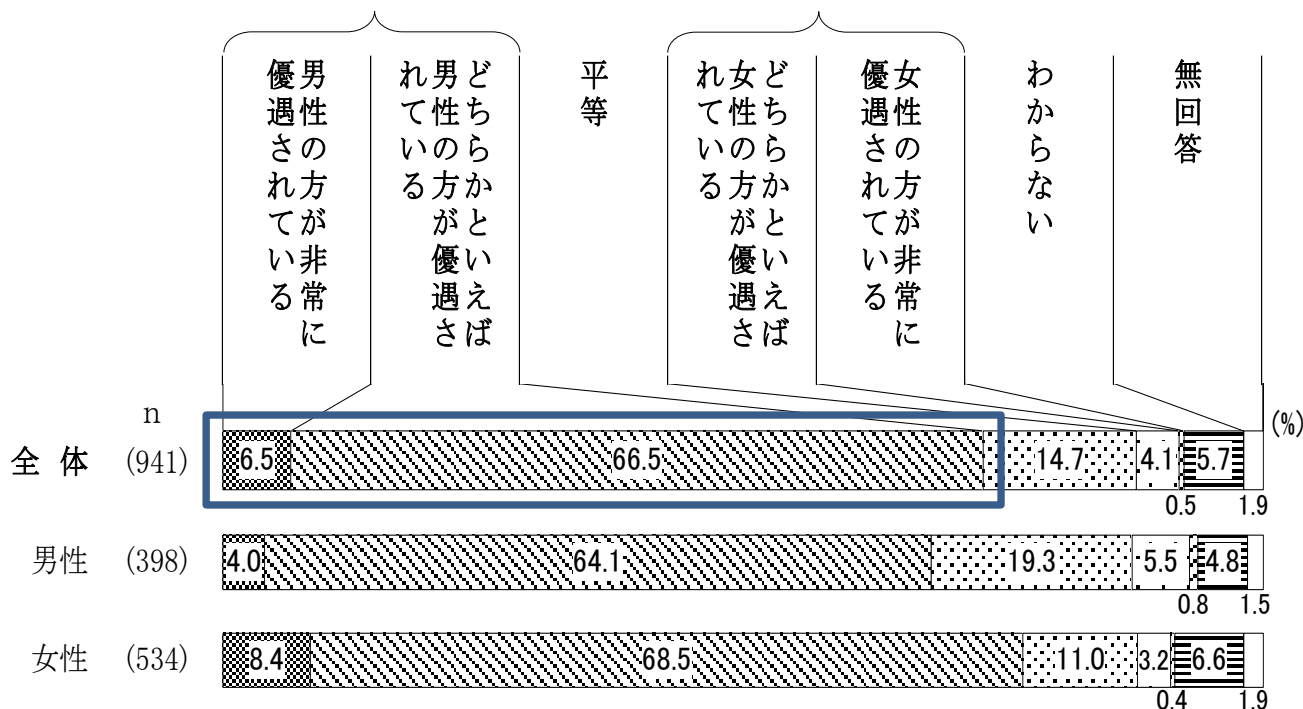
学校教育の場では『平等』が約5割と最も高いが、学校教育以外の6分野では『男性優遇』が高く、多くの市民が社会の様々な場面で男女の不平等を感じていることがわかった。男女平等の実現に向けた意識啓発への取り組みが今後もより一層求められる。



社会全体における男女の地位平等について

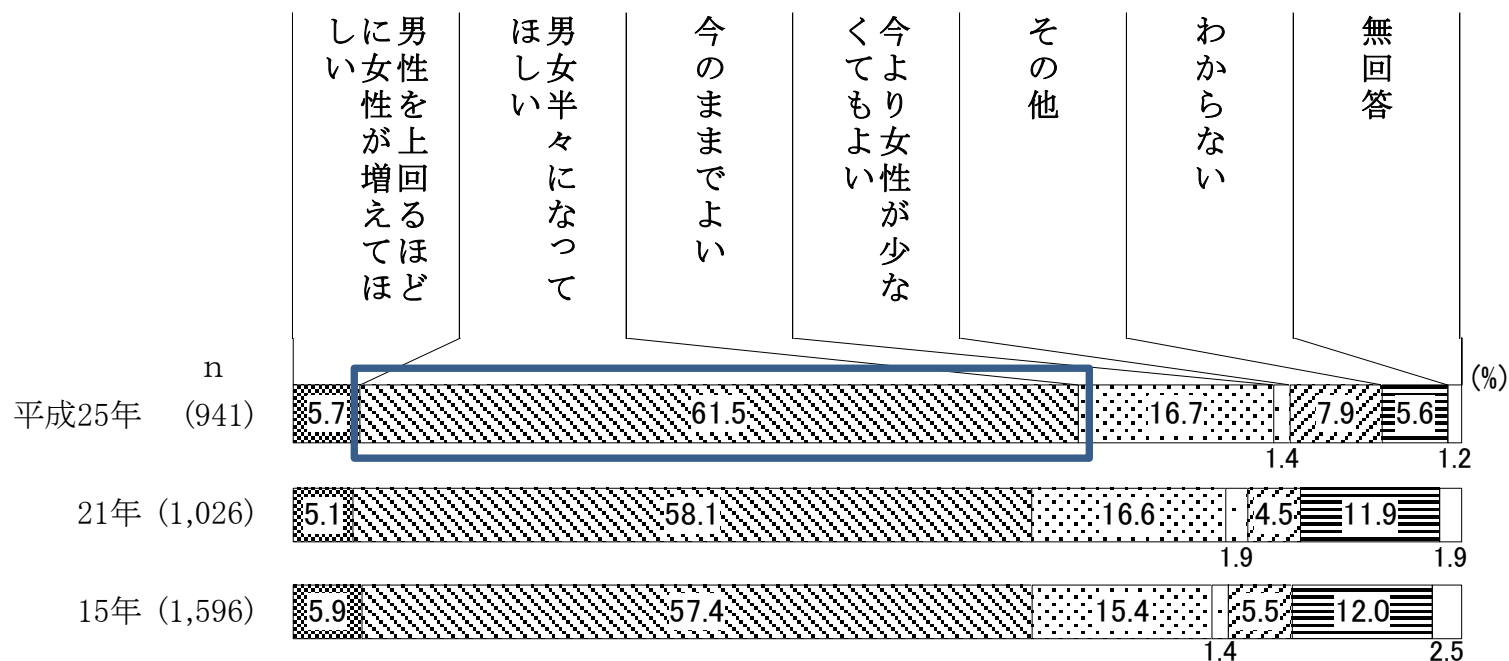
社会全体における男女の地位の平等については、『男性優遇』が全体の7割を占めており、男女間の不平等を感じている市民が多いことがわかった。

『男性の方が優遇されている』 『女性の方が優遇されている』



政策決定の場に女性が少ない現状について(経年比較)

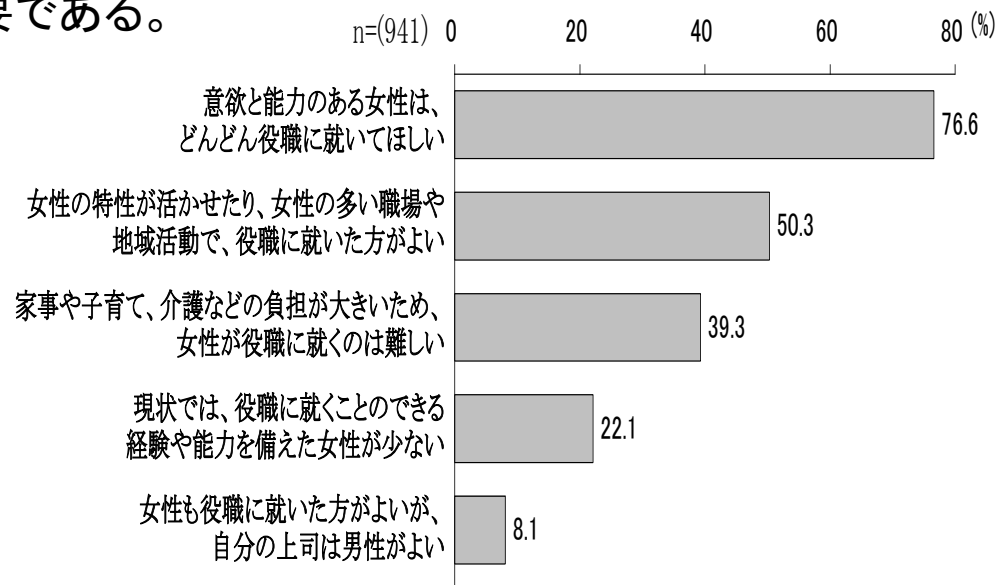
政策決定の場に女性が少ない現状については、21年度調査と同様に「男女半々になってほしい」が6割を占めている。



女性が職場や地域で役職に就くことについて

女性が職場や地域で役職に就くことについては、「意欲と能力のある女性は、どんどん役職に就いてほしい」が7割半を占めており、女性の参画、能力発揮に期待する傾向が表れている。

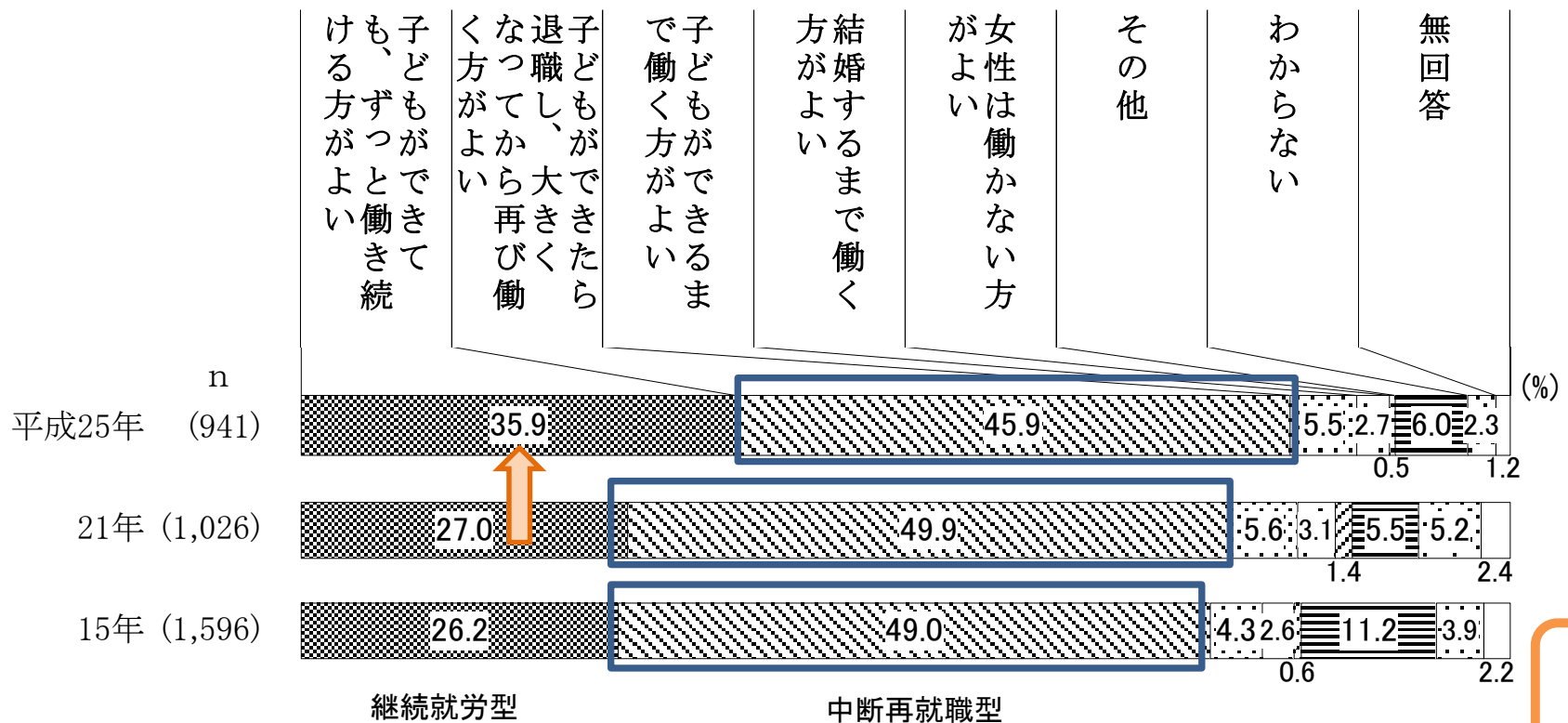
男女共同参画社会の実現には、政策・方針決定の場への女性の参画が不可欠である。しかし政治の世界や企業などで指導的地位に女性が占める割合はまだ低いのが現状である。今後も、女性が能力を十分に発揮できる環境を作っていくことが必要である。



一般的に女性が働くことについて(経年比較)

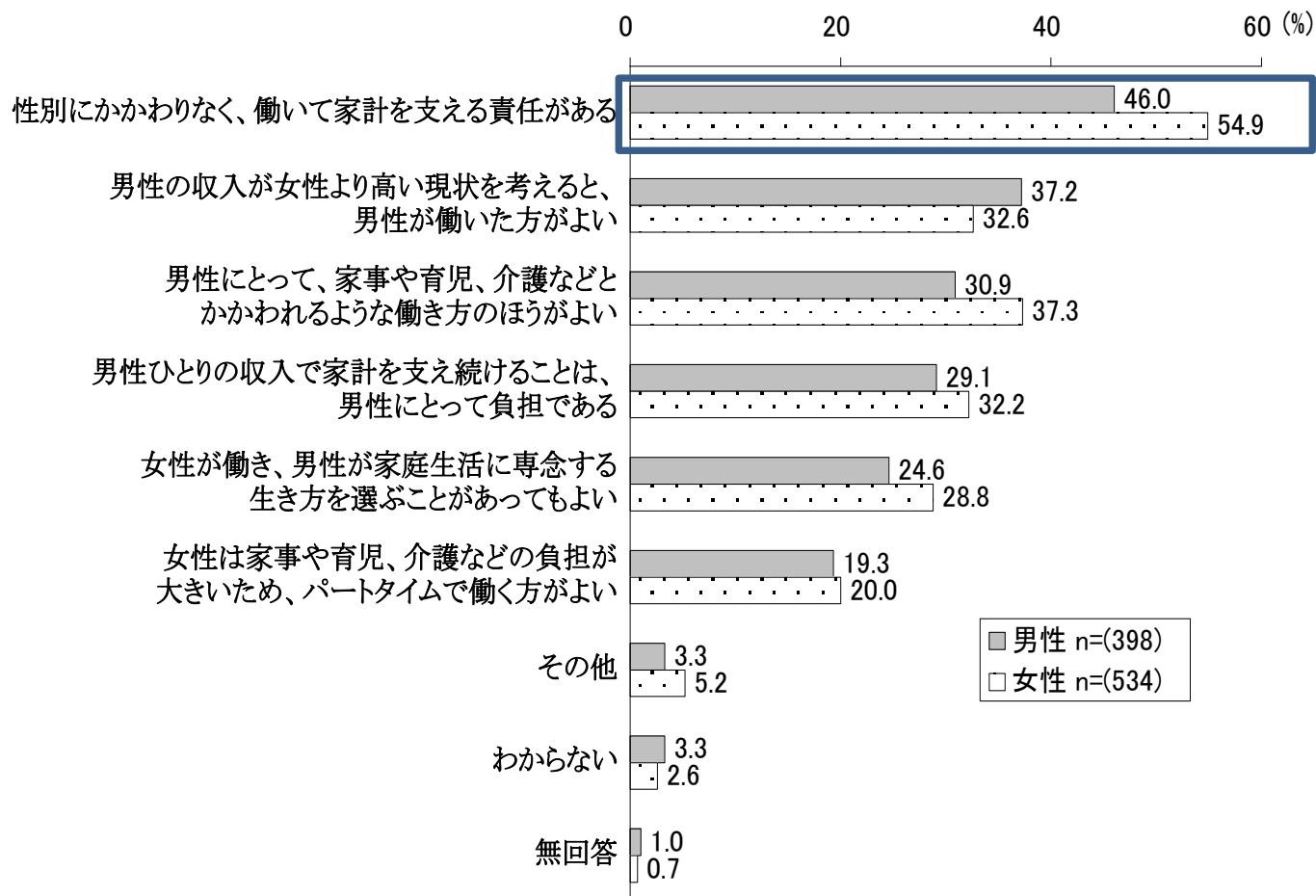
「子どもができたら退職し、大きくなってから再び働く方がよい(中断再就職型)」が最も高く、続いて「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい(継続就労型)」と回答している。

21年度調査と比べて、継続就労型は8.9ポイント増加している。



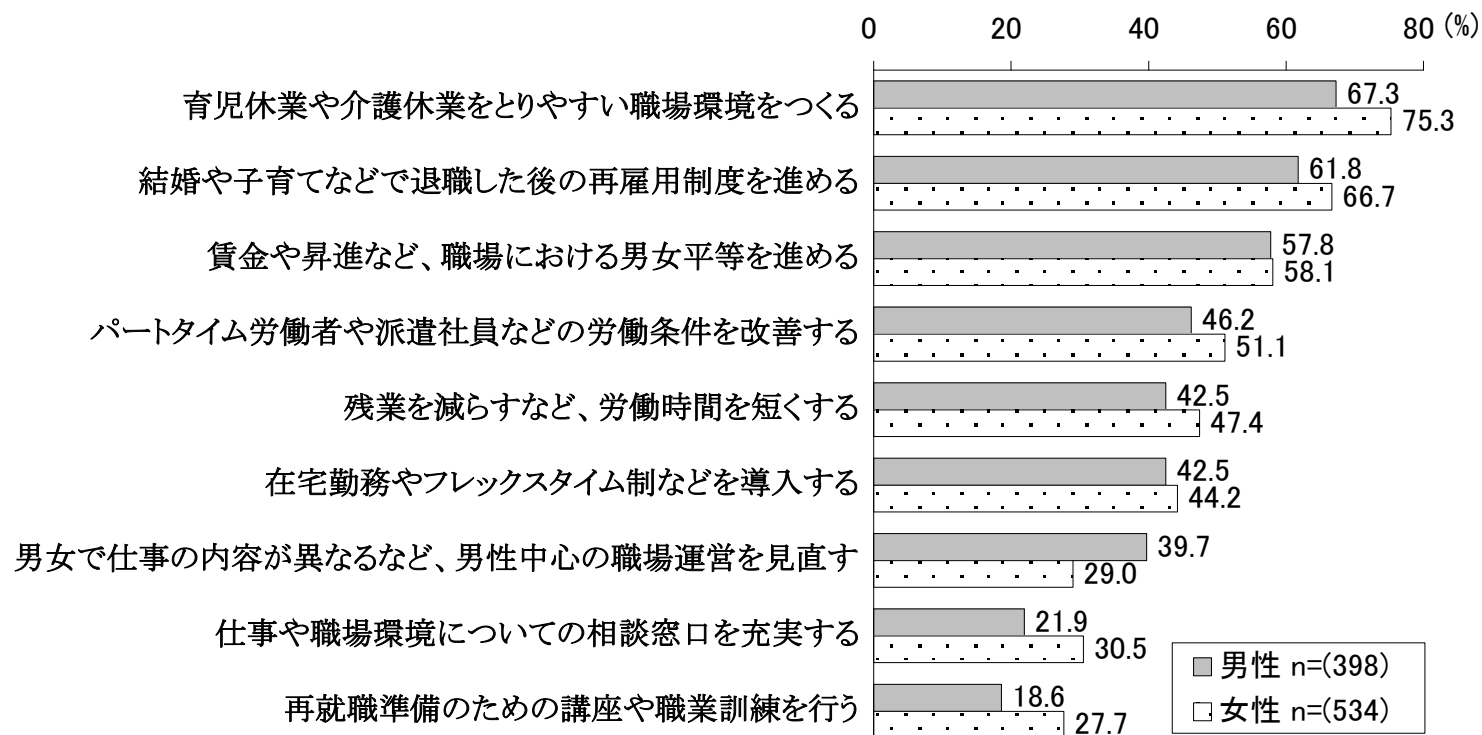
夫婦の働き方について

男女ともに「性別にかかわらず、働いて家計を支える責任がある」が最も高く、女性の方が8.9ポイント高い。



男女がともに働きやすい職場づくりに大切なことについて

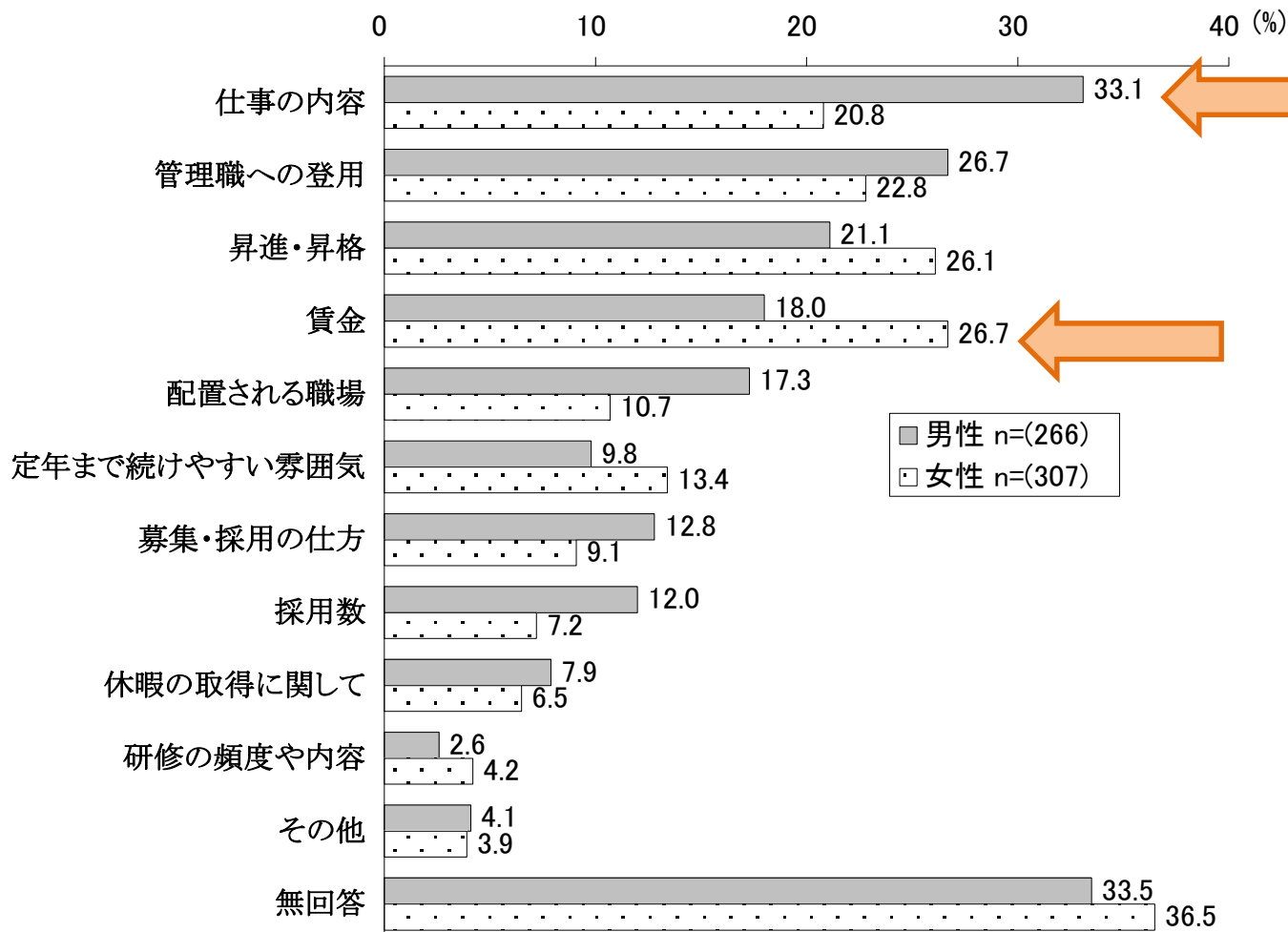
男女ともに「育児休業や介護休業の取りやすい職場環境をつくる」が最も高いことから、子育てをしながら働き続けられるよう、仕事と家庭を両立しやすい職場環境づくりを促進するなど、社会全体で子育てを応援し、子どもを産み育てやすい環境づくりを進めていくことが重要である。



性別による扱いの差の内容について

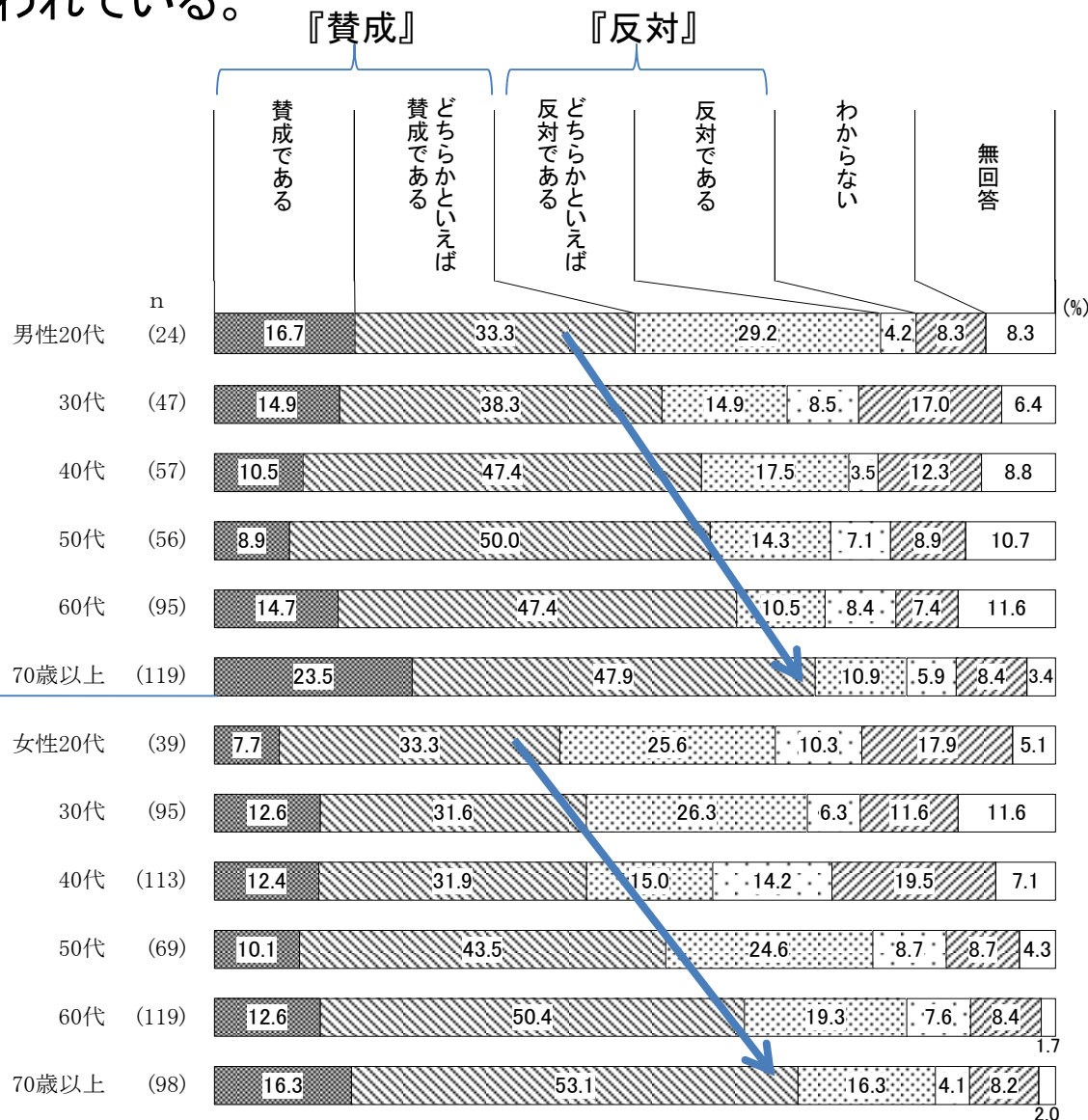
男性では「仕事の内容」が最も高く、続いて「管理職への登用」「昇進・昇格」の順。

女性では「賃金」が最も高く、続いて「昇進・昇格」「管理職への登用」の順である。



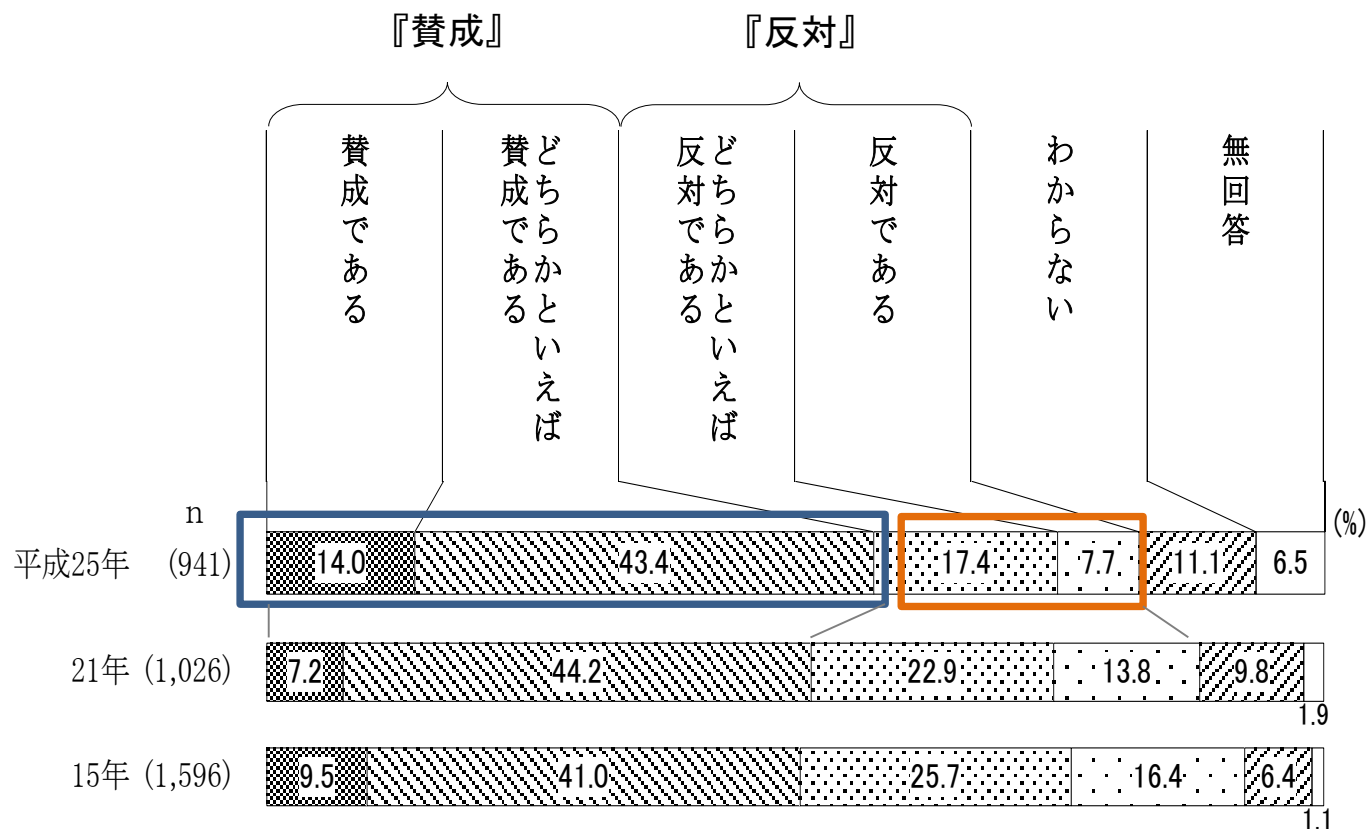
「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について

男女ともに『賛成』が高く、年代が高くなるにつれて『賛成』が増加傾向がみられた。依然として、固定的性別役割分担意識が根強く残っており、若年層より高齢層において強く現われている。



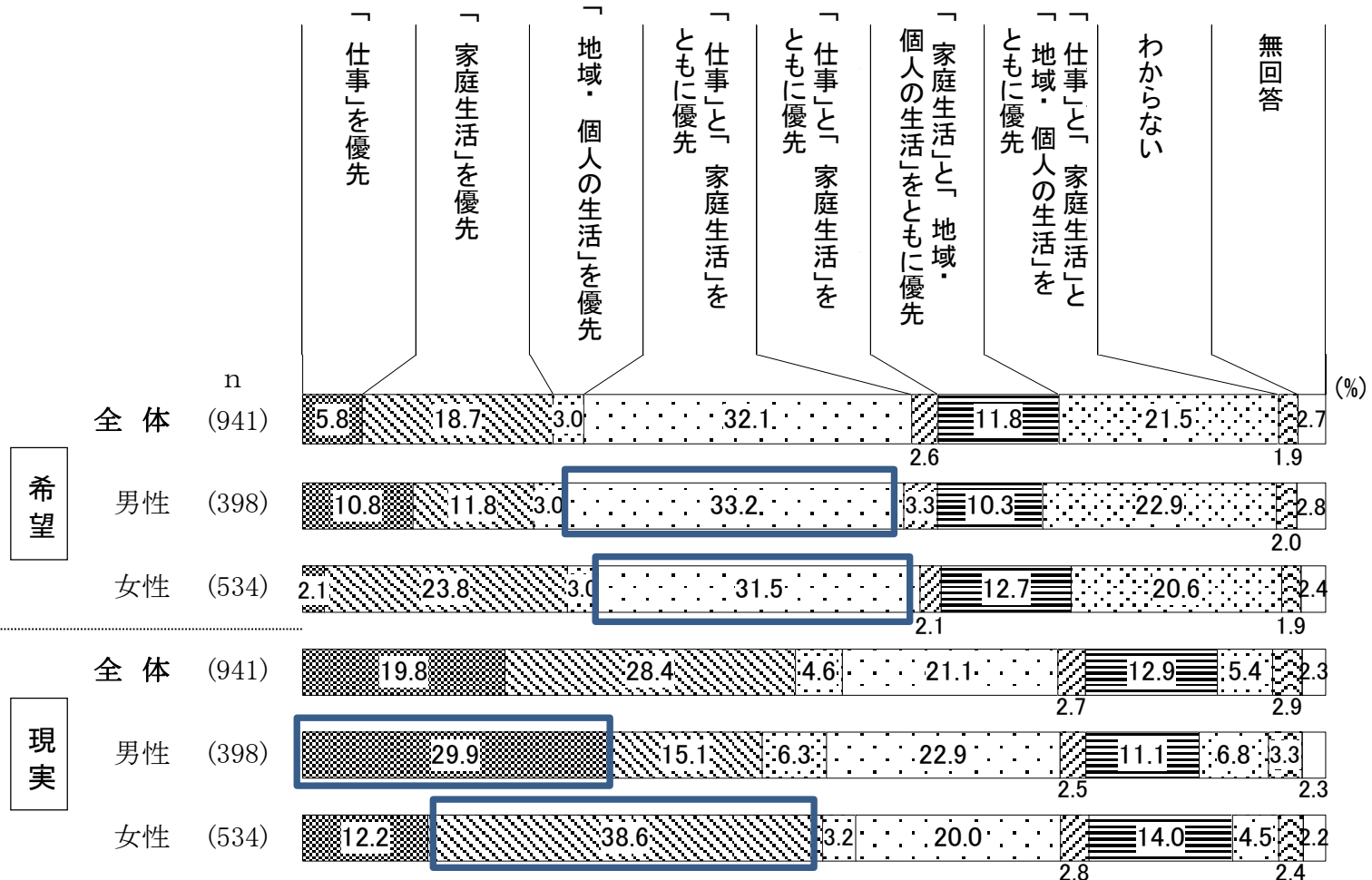
「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について(経年比較)

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について21年度調査と比較すると、『賛成』が6.0ポイント増加し、『反対』が11.6ポイント減少している。



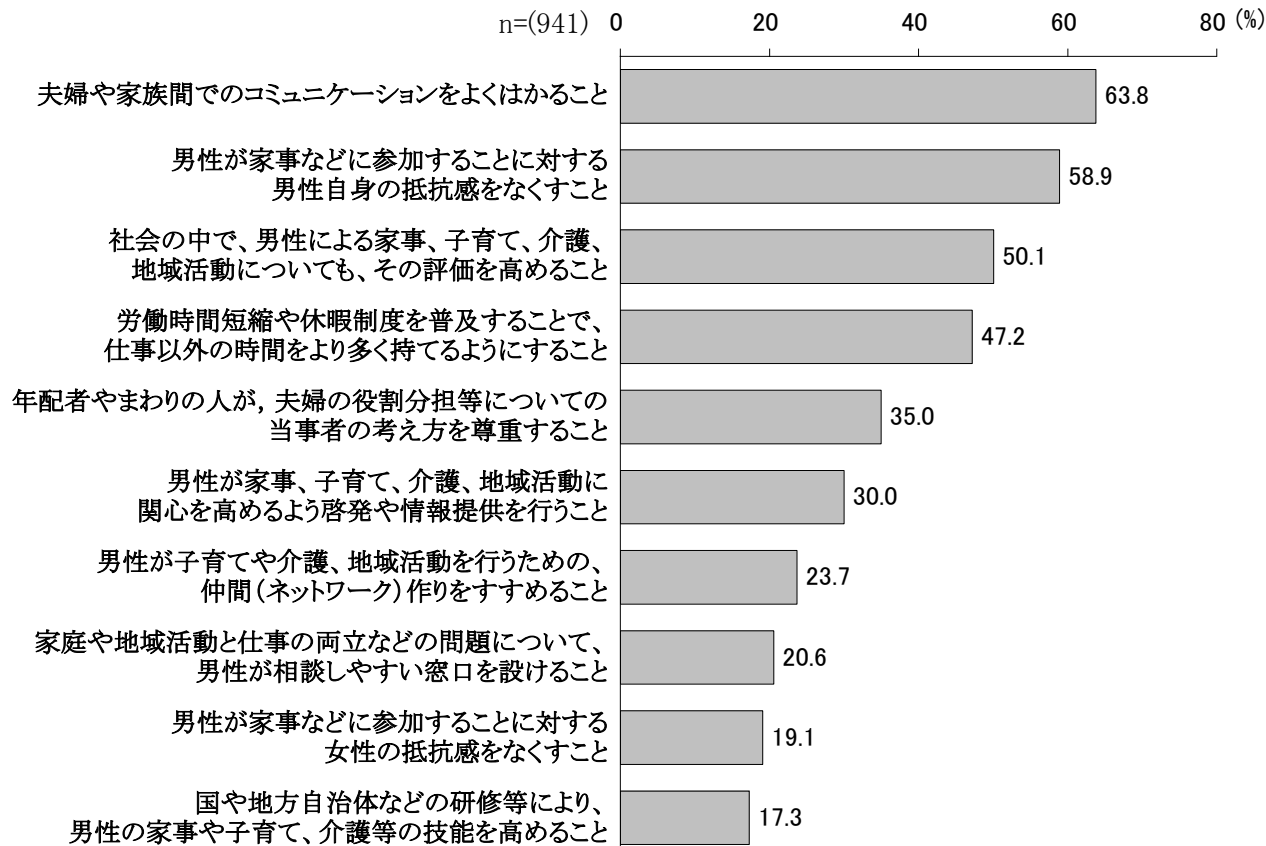
「仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度」(希望と現実)

男女ともに希望と現実の間には差がある。“「仕事」と「家庭生活」をともに優先”を希望する回答は男女ともに3割と最も高いが、現実の優先度としては、男性は“「仕事」を優先”、女性は“「家庭生活」を優先”が高くなっている。



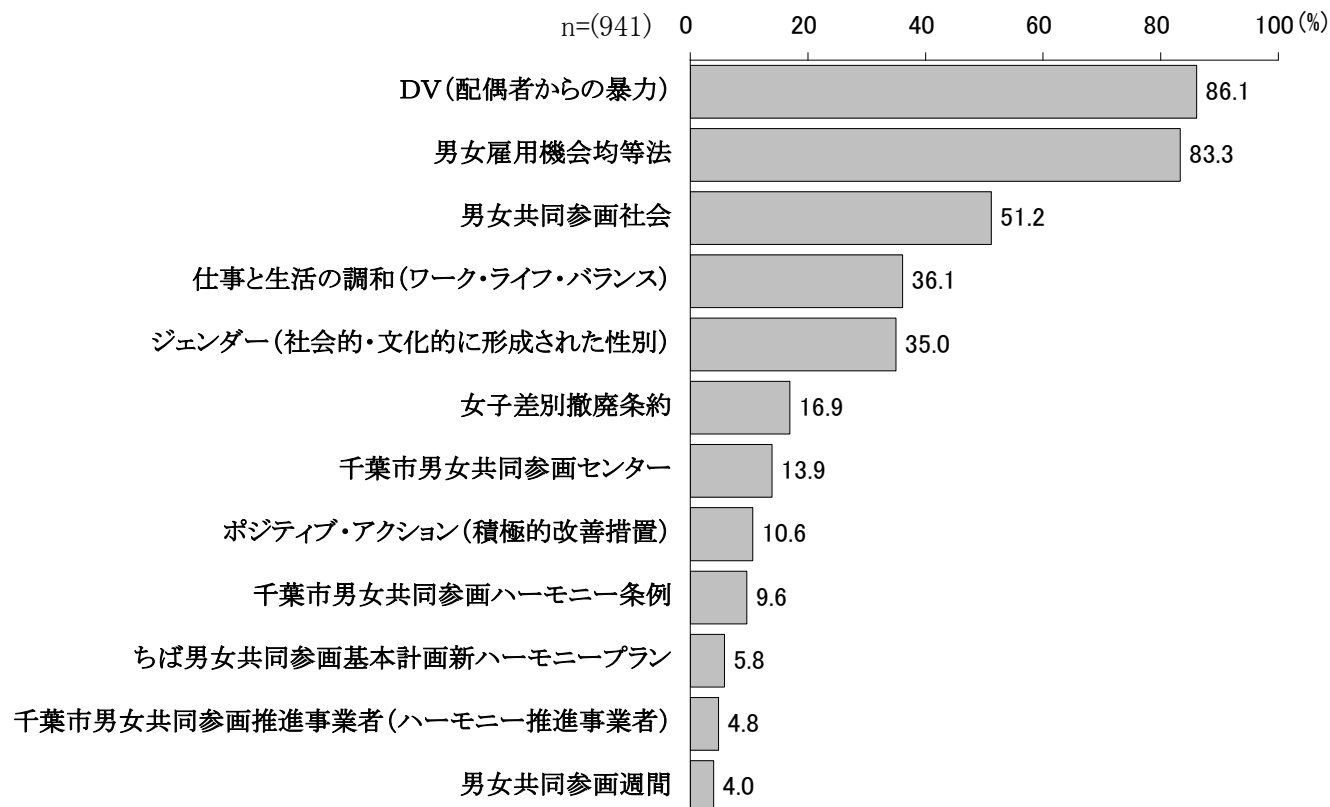
男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」や「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」という回答が多かった。

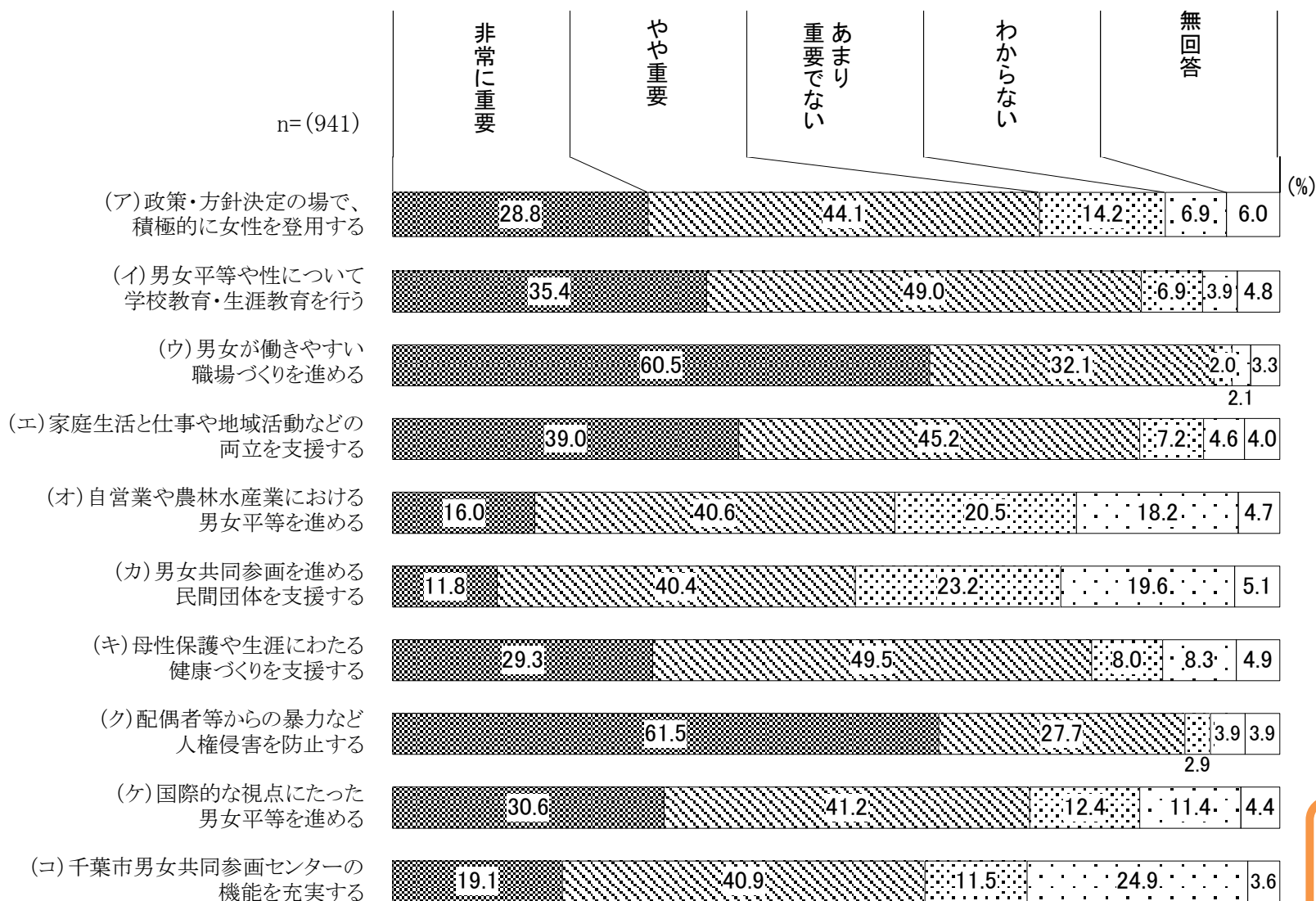


男女共同参画に関する用語について

男女共同参画に関する用語については、「DV(配偶者からの暴力)」「男女雇用機会均等法」の周知度が高く、男女ともに8割以上であった。一方、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」は3割半、「千葉県男女共同参画センター」は1割半と低めであったことから、さらなる周知が必要である。



「配偶者等からの暴力など人権侵害を防止する」「男女が働きやすい職場づくりを進める」が6割で非常に重要であるという回答が多かった。



今後に向けて取り組むべき主な事項

- 固定的性別役割分担意識の解消に向けた啓発
- 女性の能力を十分に発揮できる環境の整備
- 男女がともに働きやすい職場環境づくり
- 仕事と家庭を両立しやすい環境の整備（ワークライフバランス）
- 配偶者からの暴力など人権侵害を防止する取り組み

※本調査報告書は、千葉市男女共同参画センターおよび市内図書館にございますので、詳しくはそちらをご覧ください。

発行日：平成26年3月

発行：千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
千葉市男女共同参画センター 電話043-209-8771